

2 まちづくり方針の展開 (案)

方針1 基盤づくり…ひと中心のまちづくりを支える基盤を整える

道路	<ul style="list-style-type: none"> ■当該エリアの外郭道路ネットワークを形成し、東大通等への通過交通の抑制を図る ■自動運転やまちづくりのDXなどデジタル技術の進展に対応して、道路や公共空間をフレキシブルに活用
モビリティ (移動)	<ul style="list-style-type: none"> ■公共交通のターミナルの整備等を契機として、市内及び広域の交通ネットワークの再編を検討 ■自動運転やMaaS等を導入した新たな都市交通を実現するため、それらに対応したバス待ち空間や乗降スペースの確保など、公共交通サービスの質を高めるとともに、鉄道や水上交通等も含めた公共交通の連携を強化 ■自転車や新たなパーソナルモビリティなど環境にもやさしいモビリティの交通環境を充実
駐車場・荷捌き	<ul style="list-style-type: none"> ■まちづくりと連携して駐車場の配置や出入口の位置等を誘導し、まちなかの駐車場の配置適正化を図る ■事業活動に伴う荷捌き等については、実態の把握とともに必要に応じた対応策を検討

【該当するSDGsの目標】



方針2 歩行者空間づくり…ひと中心のウォーカブルな空間を形成する

歩行・滞留	<ul style="list-style-type: none"> ■再開発等との連携により3つのモールを軸とした豊かな歩行空間を形成するとともに、道路・民地の双方で、都心のライフスタイルの質を高める豊かな滞留空間を創出 ■再開発等との連携により歩行者空間や滞留空間を緑のネットワークとしてつなぎ、潤いある空間を形成
1階づくり (グラウンドレベル)	<ul style="list-style-type: none"> ■再開発等との連携により主要な歩行者ルート沿いを中心に沿道民地の1階部分のオープン化による賑わいのしみだしとともに、歩いていても“新潟らしさ”が感じられる空間を創出 ■再開発と連携し、ストリートの特長や将来ビジョンに合わせた1階部分の土地利用を誘導
移動情報	<ul style="list-style-type: none"> ■エリア内はもとより、古町地区や万代島地区を含めた、にいがた2kmや、市内の回遊性の向上を促すため、デジタル技術も活用した案内施設や情報提供により、案内機能を強化 ■移動情報の提供とともに、エリアの価値向上やマネジメントに資する屋外広告の柔軟な運用を検討

【該当するSDGsの目標】



方針3 魅力づくり…エリア固有の資源を活かした魅力を再発見し、磨く

柔軟な土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ■まちなか居住や混合的な土地利用、ストリートと一体となったオープンスペース、空き地・空き店舗等の有効活用など、ストリートの特性と将来ビジョンに応じた土地利用を誘導
ビジネス・イノベーション	<ul style="list-style-type: none"> ■柔軟な働き方や高機能オフィスに対応した多様な業種・業態の商業・業務機能を誘導 ■オープンイノベーションをきっかけに、ベンチャー企業等の誘致やスタートアップ拠点の形成などを通じて、イノベーションを促進する新たなビジネス拠点を形成 ■メタバース、ドローンなど先端技術の活用や、DXの推進等により、ビジネスチャンスが芽生える環境づくりを推進
歴史文化	<ul style="list-style-type: none"> ■信濃川、港、萬代橋、旧新潟駅などの歴史的な資源を活かした都市デザインを推進 ■アートやマンガ・アニメなど文化を発信
景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ■ストリートごとの特性や成り立ちを活かした街並みや、都市緑化を推進し、みなとまちとしての活力と風格のある都市景観を形成 ■オープンスペースの設置による交流を促す景観づくり、建物のガラス面からの透過光、ライトアップ等の灯りによる上質な夜間景観づくり

【該当するSDGsの目標】



方針4 安心・安全な環境づくり…安全安心で持続可能な都市環境を形成する

グリーンインフラ	<ul style="list-style-type: none"> ■公共空間の整備改修や新潟都心地域開発ガイドラインに基づく民間開発などの機会を活かした積極的なグリーンインフラの活用・普及
省エネ・再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ■省エネルギーに資する建物や移動手段への転換、再生可能エネルギーの活用などにより都市の環境負荷を軽減
防災・減災	<ul style="list-style-type: none"> ■都市機能の継続性と市民の命を守る水災害への対応として、民間との連携による津波避難ビルや一次避難施設等の確保を促進 ■避難者の受け入れや災害備蓄など、エリアに応じた地域防災や事業継続に向けた対応を図る

【該当するSDGsの目標】



方針5 仕組みづくり…官民連携でまち・人を育て、発信する

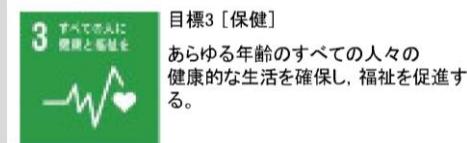
エリアプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> ■人材と情報の出会い、交流の受け皿となるエリアプラットフォームを構築・運営
エリアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ■エリアの魅力と価値を高めるため、各種事業を展開しながら、持続的な事業運営を可能とするエリアマネジメントを適材適所で推進。それに資する人材を育成
シティブランディング	<ul style="list-style-type: none"> ■エリアごとのアイデンティティを活かし、その魅力の創出と情報発信を行いながら、古町地区、万代島地区を含む「にいがた2km」としてシティブランディングの取り組みを推進
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ■ポータルサイトの構築や、SNS、その他プロモーション手法を活用したイベント情報、まちづくりの進展などの情報発信

【該当するSDGsの目標】



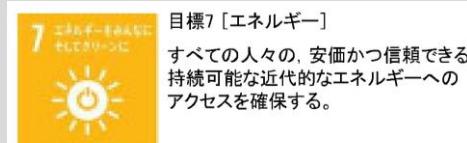
(参考)SDGsの目標

本市は、「SDGs未来都市」として、対象エリアの取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献します。



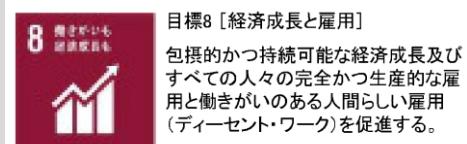
目標3【保健】

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。



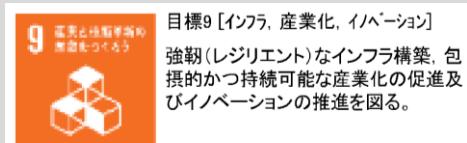
目標7【エネルギー】

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する。



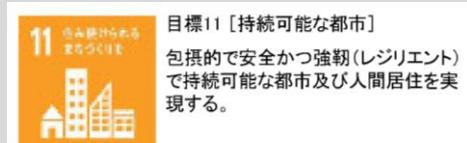
目標8【経済成長と雇用】

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。



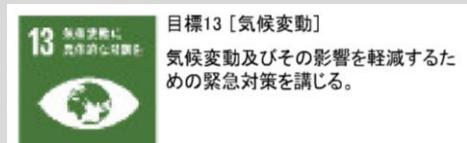
目標9【インフラ、産業化、イノベーション】

強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。



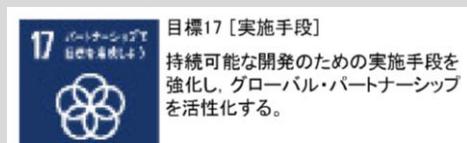
目標11【持続可能な都市】

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。



目標13【気候変動】

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。



目標17【実施手段】

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる。

方針1 基盤づくり

ひと中心のまちづくりを支える基盤を整える



道路

当該エリアの外郭道路ネットワーク（万代島ルート線等）を形成し、東大通等への通過交通の抑制を図る

自動運転やまちづくりのDXなどデジタル技術の進展に対応して、道路や公共空間空間をフレキシブルに活用



マイカーによる通過交通を抑制した公共交通と歩行者優先の通りのイメージ

モビリティ（移動）

公共交通のターミナルの整備等を契機として、市内及び広域の交通ネットワークの再編を検討

自動運転やMaaS等を導入した新たな都市交通を実現するため、それらに対応したバス待ち空間や乗降スペースの確保など、公共交通サービスの質を高めるとともに、鉄道や水上交通等も含めた公共交通の連携を強化

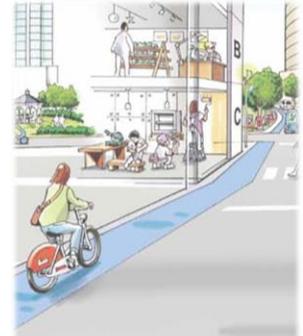
自転車や新たなパーソナルモビリティなど環境にもやさしいモビリティの交通環境を充実



新潟駅周辺整備（交通ターミナル）事業計画



質の高い公共交通サービスイメージ（都市再生緊急整備地域パンフレットより）

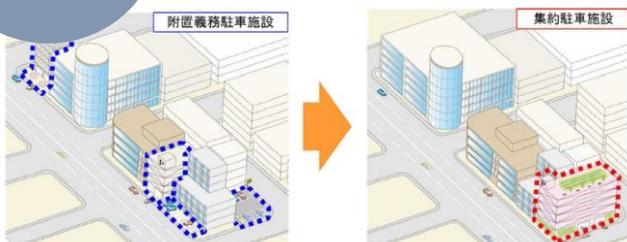


自転車やパーソナルモビリティの通行環境整備イメージ

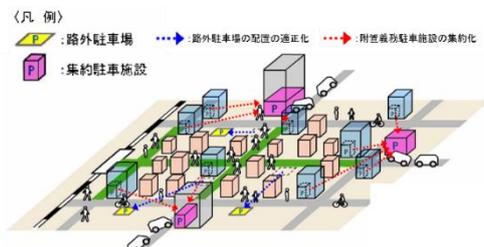
駐車場荷捌き

まちづくりと連携して駐車場の配置や出入口の位置等を誘導し、まちなかの駐車場の配置適正化を図る

事業活動に伴う荷捌き等については、実態の把握とともに必要に応じた対応策を検討



駐車場の集約化イメージ（国土交通省資料）



まちづくりと連携した駐車場施策ガイドライン（基本編）（国土交通省資料）

方針2 歩行者空間づくり

ひと中心のウォーカブルな空間を形成する

歩行
滞留

再開発等との連携により3つのモールを軸とした豊かな歩行空間を形成するとともに、道路・民地の双方で、都心のライフスタイルの質を高める豊かな滞留空間を創出

再開発等との連携により歩行空間や滞留空間を緑のネットワークとしてもつなぎ、潤いある空間を形成



歩行者優先のストリートとなった
弁天通のイメージ



通り全体を広場化した
旧新潟駅前通イメージ

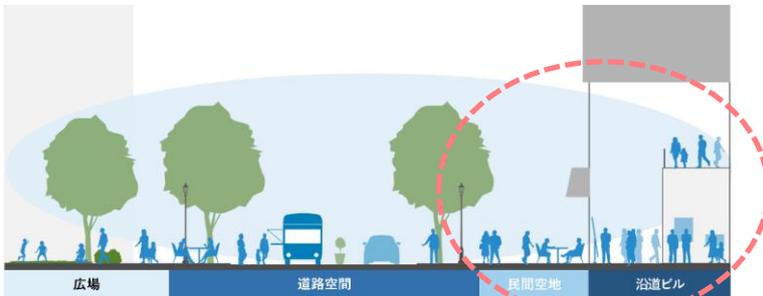


ガルベストン通り

1階づくり
(グランドレベル)

再開発等との連携により主要な歩行者ルート沿いを中心に沿道民地の1階部分のオープン化による賑わいのしみだしとともに、歩いている“新潟らしさ”が感じられる空間を創出

再開発等と連携し、ストリートの性格や将来ビジョンと合わせた1階部分の土地利用を誘導



一体的なグランドレベルデザインのイメージ
(居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン
令和3年6月 国土交通省 都市局 まちづくり推進課)



沿道の商業施設と一体となった
万代シティ通り (万代シティ中心
エリアリニューアル企画書より)

移動
情報

エリア内はもとより、古町地区や万代島地区を含めた、新潟2kmや、市内の回遊性の向上を促すため、デジタル技術も活用した案内施設や情報提供により、案内機能を強化

移動情報の提供とともに、エリアの価値向上やマネジメントに資する屋外広告の柔軟な運用を検討



わかりやすい案内サインなど、
安心して歩ける空間づくりのイメージ



大阪市うめきた地区における景観自主ルールに
基づく屋外広告物の掲示事例

方針3 魅力づくり

エリア固有の資源を活かした魅力を再発見し、磨く

柔軟な
土地利用

まちなか居住や混合的な土地利用、ストリートと一体となったオープンスペース、空き地空き店舗等の有効活用など、ストリートの特性と将来ビジョンに応じた土地利用を誘導

柔軟な土地利用の連鎖的な展開
(事例：富良野市 出典：市街地整備2.0 (国土交通省))



柔軟な働き方や高機能オフィスに対応した多様な業種・業態の商業・業務機能を誘導

ビジネス・
イノベーション

オープンイノベーションをきっかけに、ベンチャー企業等の誘致やスタートアップ拠点の形成などを通じて、イノベーションを促進する新たなビジネス拠点を形成

メタバース、ドローンなど先端技術の活用や、DXの推進等により、ビジネスチャンスが芽生える環境づくりを推進



コワーキングスペース
(MOYORe) (新潟都心地域開発ガイドラインより)



NINNOと渋谷QWSに入居するベンチャーキャピタルや渋谷QWSと連携する大学機関とをデジタル技術を介してマッチング
出典：まちづくりDXの施策紹介 (国土交通省)



地域整備方針に合致した容積率等の緩和が適用される取組のイメージ (新潟都心地域開発ガイドラインより)

歴史
文化

信濃川、港、萬代橋、旧新潟駅などの歴史的な資源を活かした都市デザインを推進

アートやマンガ・アニメなど文化を発信



萬代橋とメディアシップ

景観
形成

ストリートごとの特性や成り立ちを活かした街並みや、都市緑化を推進し、みなとまちとしての活力と風格のある都市景観を形成

オープンスペースの設置による交流を促す景観づくり、建物のガラス面からの透過光、ライトアップ等の灯りによる上質な夜間景観づくり



夜間の景観イメージ
(新潟都心地域開発ガイドラインより)

方針4 安心・安全な環境づくり

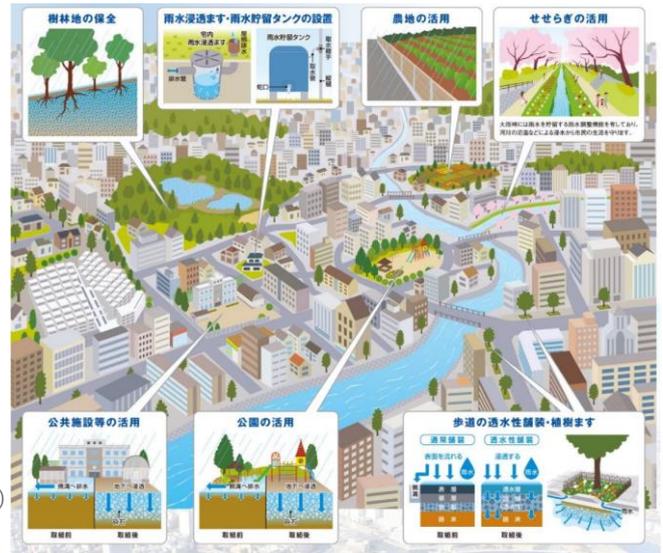
安全安心で持続可能な都市環境を形成する



グリーン
インフラ

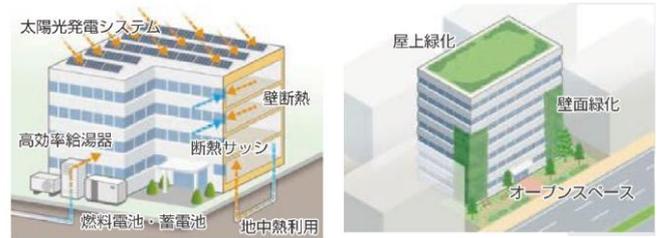
公共空間の整備改修や新潟都心地域開発ガイドラインに基づく民間開発などの機会を活かした積極的なグリーンインフラの活用・普及

様々なグリーンインフラの取組例
出典：グリーンインフラの事例（国土交通省）



省エネルギー
再生可能
エネルギー

省エネルギーに資する建物や移動手段への転換、再生可能エネルギーの活用などにより都市の環境負荷を軽減



再生可能エネルギーの活用や緑化等を取り入れた取組のイメージ（新潟都心地域開発ガイドラインより）

防災
減災

都市機能の継続性と市民の命を守る水災害への対応として、民間との連携による津波避難ビルや一次避難施設等の確保を促進

避難者の受け入れや災害備蓄など、エリアに応じた地域防災や事業継続に向けた対応を図る



災害備蓄のイメージ（新潟都心地域開発ガイドラインより）



津波到達時間と避難ビルの位置（中央区HP）

方針5 仕組みづくり

官民連携でまち・人を育て、発信する



エリアプラットフォーム
(地区全体)

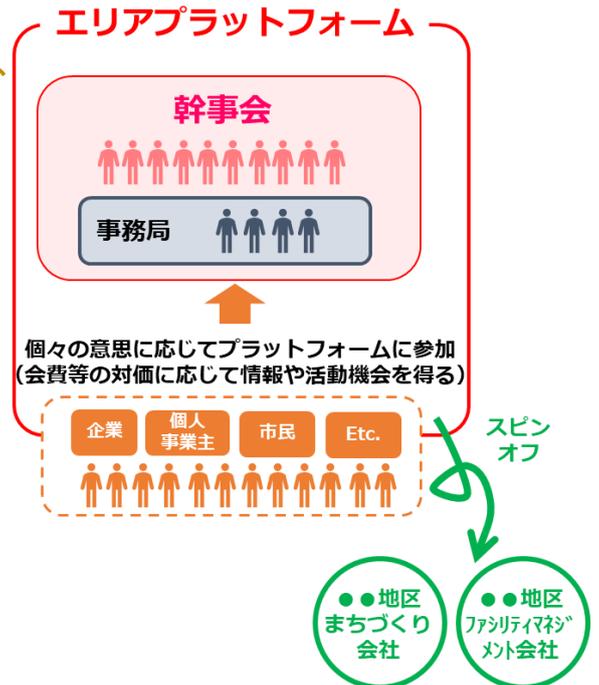
人材と情報の出会い、交流の受け皿となるエリアプラットフォームを構築・運営

エリアマネジメント
(ゾーンごと)

エリアの魅力と価値を高めるため、各種事業を展開しながら、持続的な事業運営を可能とするエリアマネジメントを適材適所で推進。それに資する人材を育成

新潟駅・万代地区周辺におけるエリアプラットフォームとエリアマネジメントの違い

- ・ エリアプラットフォームは情報や活動の受け皿（プラットフォーム）であり、それ自体が活動を行う主体ではありません。
- ・ エリアマネジメント組織は、それ自体が収益活動を含む事業を営む組織です。
- ・ 例えばエリアプラットフォームの実行委員会として任意に組織を立ち上げ、それが将来的にエリアマネジメント組織（まちづくり会社など）に発展していくことなどは想定されます。



シティブランディング

エリアごとのアイデンティティを活かし、その魅力の創出と情報発信を行いながら、古町地区、万代島地区を含む「にいがた2km」としてシティブランディングの取り組みを推進



にいがた2kmのまちづくり

情報発信

ポータルサイトの構築やSNS、プロモーション手法を活用したイベント情報、まちづくりの進展などの情報発信

